

令和5年度10月入学・令和6年度4月入学

大学院人間文化総合科学研究科（博士前期課程）入学試験問題

【一般選抜】

言語文化学専攻
日本アジア言語文化学コース

〔専門科目〕

試験日：令和5年9月1日（金）

注 意

1. この冊子には、次のとおり、2分野、合計5題の問題が綴じられている。
(総ページ数 — 6ページ)

A群 (A I～AIV)

B

試験開始に際しては、まず、上記のとおり全問題があることを確認し、脱落がある場合は、挙手により監督官に申し出ること。

2. 各受験者は、A群のうちからいずれか1題を選び、Bの問題と合わせて解答すること。
3. 解答に際しては、A・Bそれぞれ指定された解答用紙を用いること。
(裏面も使用してよい。)

なお、使用する解答用紙のすべてに受験番号及び氏名を記入すること。

4. 試験終了後、この冊子は持ち帰ること。

A I つぎに挙げるのは、『萬葉集』巻十六・三八四九〜三八五〇番歌である。これについて後の問に答えよ。

生死之^A 二つの海を 厭見^{いとほしみ} 潮干の山を^B 之努比鶴鴨^{にどひつる鴨}
世間之^C 繁き^{かり}仮廬^ほに 住み住みて^D 将至^{まさ}国之 たづき知らずも^E
右歌二首河原寺之佛堂裏在倭琴面之

問一 傍線部A・Bについて、

(a) それぞれの訓を平仮名のみで書き下せ。

(b) A、Bの本文のべ8文字について、訓字、音仮名、訓仮名に分類せよ。

問二 傍線部C・Dについて

(a) それぞれの訓を平仮名のみで書き下せ。

(b) 「世間」「国」が指しているのと同じ意の言葉を二首の歌からすべて抜き出して示せ。

問三 三八四九番歌の傍線部「潮干の山」は何を指すか。「生死之 二つの海」と比較しつつ、比喩にも留意して詳しく説明せよ。

問四 傍線部Eは当該二首の左注である。どういうことを言っているか、わかりやすく説明せよ。

問五 次の歌は、巻五・八〇五、山上憶良の歌である。

常磐^{とぎは}なす かくしもがもと 思へども 世の事^{こと}理^となれば 留^{とど}みかねつも

(a) 現代語訳せよ。

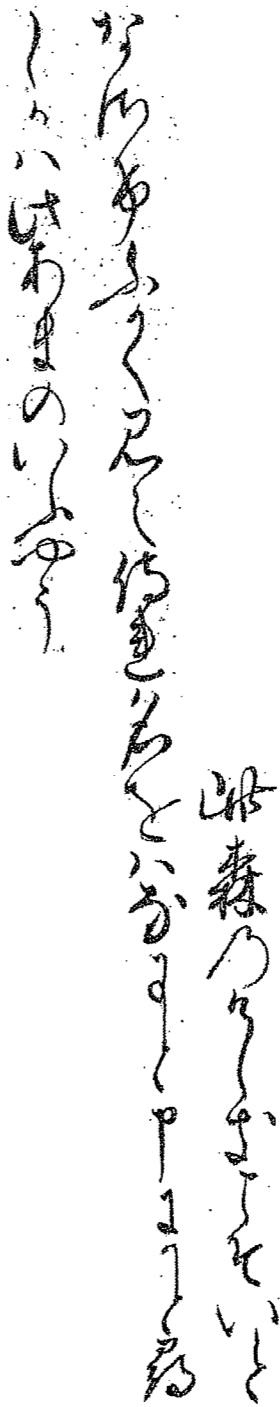
(b) 三八四九番〜三八五〇番と共通して読み取れることとはどのようなことか、わかりやすく説明せよ。

問六 三八四九番の二重傍線部「厭見」は寛永版本では「いとひみて」と訓じられている。「いとほしみ」と「いとひみて」ではそれぞれどのように訳すのが適当か、説明せよ。

A II つぎの文章は、二条良基の紀行文『小島のくちずさみ』の一節である。南朝方が京都を攻略したため、北朝の後光厳天皇は美濃国の小島に避難していた。良基は瘡病のため都に留まっていたが、七月に美濃の行宮へ赴いた。これについて、後の問に答えよ。

関の東よりは、便りの風につけて、「かくばかり情なき世に、何の頼みにか暫しも休らふ」と、たび／＼ありしかば、げに岩ほの中とても通るまじげなる世の有様に、折／＼聞え来る松の嵐の激しさも、いづこを見えぬ山路と頼むべきならねば、七月廿日余り、有明の月のまだ夜深きに、草の庵を立ち出て、東路遠く思ひ立つ。心の中すゞろに物悲し。

老蘇の森といふ所は、たゞ杉の梢ばかりにて、あらぬ木はさらに混らず。山もとかけて眺めの末、いと見所多し。道遠く行き暮れぬれば、輿こし昇かき据へて、「今夜一夜の草の枕もいづくにか」と里人呼び出て言問ふに、年長けたる尼一人出て、「このあたりの才学ありげなりしかば、



「これなん古き名所に侍りける。尼が年の名にて侍る」由をぞ答へし。かゝる者の中にも心ある物言ひ、さらに田舎びたり共覚え、いとあはれにて、

A 今は身の老蘇の森ぞよそならぬ三十余りも杉の下蔭
乱り心地なをむつかしければ、一夜はとまりつゝ、間日ばかりにてありし。道の行先する／＼ともあらで、日数のみぞ積りける。

又、野洲川とかやを渡るとて、

B いつまでと袖うち濡らし野洲川の安げなき世を渡りかぬらん
犬上鳥籠いぬかみとこの山、不知哉川いさかやなどいふ所は、いたく目に立つともなければ、いづくとも思ひ分かず。されど名ある所はたづねまほしかりしを、かゝる旅の空にすぎ／＼しからんもうるさくて、過ぎ侍りし。鄙の衰へは、げに後までも浮名洩らすなど、この山人に口固めまほしくぞ侍りける。

(注) ○間日——瘡の発作の起らない日。

問一 波線部 a・b を現代語訳せよ。

問二 本文中の影印部分を翻字せよ。改行はもとのままとすること。

問三 傍線部 1 「尼が年の名にて侍る」とはどういうことか、説明せよ。

問四 本文中の和歌 A について、用いられている技巧を指摘したうえで解釈せよ。

問五 本文中の和歌 B について、

(1) 現代語訳せよ。

(2) 「安げなき世を渡りかぬ」とは、ここではどういうことを言っているのか、具体的に説明せよ。

問六 傍線部 2 について、どういうことを言っているのか、説明せよ。

問七 二条良基について、知るところを詳しく述べよ。

A IV 日と日の間について、すべて答えよ。

日 つぎの文と注を読んで、後の問に答えよ。

烏重胤之節度河陽也、求賢者以爲之屬、乃得石洪處士爲參謀。韓退之送之序、又爲詩曰、「長把種樹書、人云避世士。忽騎將軍馬、自號報恩子。」蓋吏非吏、隱非隱、故於洪有譏焉。後有寄盧仝詩云、「水北山人得名聲、去年去作幕下士。」其意與前詩同。昔人有「門一杜、其可開」之語、宜乎韓子以洪與溫造同科、而獨尊盧仝也。(葛立方『韻語陽秋』卷十一)

(注)

*韓退之送之序…韓愈「送石處士赴河陽序」。

*水北山人…石洪(七七—八一二)。

*昔人有…

『晉書』隱逸傳 汜騰字無忌、敦煌人也。舉孝廉、除郎中。屬天下兵亂、去官還家。太守張闔造之、閉門不見、禮遺一無所受。歎曰、「生於亂世、貴而能貧、乃可以免。」散家財五十萬、以施宗族、柴門灌園、琴書自適。張軌徵之爲府司馬、騰曰、「門一杜、其可開乎。」固辭。病兩月餘而卒。

*溫造…

七六六 八三五 韓愈「送溫處士赴河陽序」恃才能、深藏而不市者、洛之北涯曰石生、其南涯曰溫生。大夫烏公以鉄鉞鎮河陽之三月、以石生爲才、以禮爲羅、羅而致之幕下。未數月也、以溫生爲才、於是石生爲媒、以禮爲羅、又羅而致之幕下。

問一 韓愈が石洪に寄せた詩について、

(a) 句ごとに改行して抜き出し、その右横に平仄を示せ。ただし、平は○、仄は●、韻字は◎を用いること。

(b) 書き下しを示せ。

(c) 現代日本語に訳せ。

問二 文中の「吏非吏、隱非隱」とは誰のどのような行為を指すのか、説明せよ。

問三 石洪と溫造はどういう点で「同科」なのか、説明せよ。

問四 韓愈について知るところを記せ。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(沈家煊《不对称和标记论》より)

日 つぎの文を読み、後の問に答えよ。

- 問1 下線部 a の“有标记”とはどのようなことか、日本語で具体的に説明せよ。
問2 二か所の下線部 b の“周遍性”について、日本語で具体的に説明せよ。
問3 下線部 c を日本語に訳せ。
問4 下線部 d はどのようなことを述べているのか、日本語で具体的に説明せよ。

B つぎの事項のうち、いずれか任意の五つを選んで説明せよ。なお、それぞれの解答のはじめに、何番の事項についての解答であるかをかならず明記すること。

- ① 出雲国風土記
- ② 六国史
- ③ 『無名草子』
- ④ 狂言綺語
- ⑤ 横光利一
- ⑥ 戦旗(雑誌)
- ⑦ 鮎川信夫
- ⑧ 岩波文庫
- ⑨ 声点
- ⑩ 取り立て詞
- ⑪ 対者敬語と素材敬語
- ⑫ 和英語林集成
- ⑬ 『説文解字』
- ⑭ 三曹
- ⑮ 三蘇
- ⑯ 『三国志演義』
- ⑰ 『全唐詩』
- ⑱ 趙樹里